



【曳綱の儀】棟木に取り付けられた紅白の曳綱2本を曳く事によって、棟木を棟に上げる儀式。早島幼稚園、同保育園の園児100名が奉仕して「ソーレ」の掛け声で棟上げを行った。



【祓弓の儀】上棟の儀において、最初に行われる儀式で、工匠が棟の左右に分かれて天空に向かって「天の矢」、地上に向かって「地の矢」を放つ事によって祓いを行う。写真は「天の矢」を放つところ。



【餅まき】上棟祭が行われた社殿前に設置された餅まき特設舞台に総代長、役員、工匠が上がり、お祝いに参集した300人の氏子に福銭が入った紅白の餅や菓子、神酒札がまかれた。



【槌打の儀】曳綱の儀で棟に上げられた棟木を棟梁の「千歳棟」、「万歳棟」、「永永棟」の掛け声と振り幣の合図で7名の工匠がカケヤで打ち付け棟木を設置した。

上棟祭次第

- 一、修祓
(被主祓詞を奏し、神饌、玉串、棟木、工匠、参列員を祓う)
- 一、降神の儀
(斎主神籬に対し、降神詞を奏す)
- 一、献饌
(備え付け神饌の内、瓶子、水器の蓋をとる)
- 一、祝詞奏上
- 一、上棟の儀
- ◆棟木清祓の儀
(大麻所役、塩湯所役、棟木の元、末を祓う)
- ◆被い弓の儀
(工匠二名、棟足場に上がり、東妻にて天の矢、西妻にて地の矢を射る)
- ◆博士杭打ちの儀
(槌打役、補助役、随神門前に博士杭を打つ)
- ◆曳綱の儀
(曳綱役三名、曳綱二本の本を棟木の本と末に結び付け、曳綱の末を博士杭に結び付ける
曳役の幼稚園、保育園の園児及び氏子は各自綱を執る 振幣役、は屋上に向かい幣を左右左と振りながら「エイ・エイ・エイ」と唱えて、幣を左方高く上げる 屋上の工匠はその声に応じて「オー」と答える その声を聞いて「エイ・エイ・エイ」と唱えながら三度各自の綱を曳き棟木が上がるまで繰り返す)



立柱の儀を始めるにあたり工匠長以下工匠が神前に拝礼を行う

立柱祭次第

- 一、修祓 (斎主祓詞を奏し、神饌、玉串、柱、工匠、参列員を祓う)
- 一、降神の儀 (斎主神籬に対し、降神詞を奏す)
- 一、献饌 (備え付け神饌の内、瓶子、水器の蓋をとる)
- 一、祝詞奏上
- 一、立柱の儀
(工匠長以下工匠が、神前に列立して一礼。検知役に従い、棟梁が振幣役となり幣を振りながら「エイ・エイ・エイ」と唱え、幣盤木を撞く。撞き音に応じて槌打役の工匠が「オー」と唱えて二本の柱をカケヤで打ち固める)
- 一、斎主玉串を奉りて拝礼
- 一、工匠長玉串を奉りて拝礼 (工匠自座列拜)
- 一、総代長玉串を奉りて拝礼 (総代自座列拜)
- 一、撤饌 (神饌の瓶子、水器の蓋を閉じる)
- 一、昇神の儀 (斎主神籬に対し、昇神詞を奏す)

【立柱祭】立柱祭は、古来から柱(大黒柱)を立てる事を重んじた重要な儀式とされ、立柱に次いで上棟を行うので、建前とも称した。現在では上棟に重きを置き上棟を建前と称するようになった。平成二十年八月十七日、祭壇の前に二本の柱を立て、槌打ちの儀を行い立柱祭を行った。



槌打の儀で柱を打ち固める工匠



社殿の足場に祭壇を設け執行された上棟祭

【上棟祭】上棟祭は、棟木を上げるにあたって、家屋の神と工匠の神を祀って、これから後災いが無い事を祈念する祭祀である。平成二十年九月五日、足場に設けられた祭壇の前で、神職、伶人、工匠合わせて十九名奉仕の下、祭典が執行された。祓弓の儀、曳綱の儀、槌打ちの儀、散餅の儀等の後、参集した三〇〇人の氏子に対し奉祝の餅まきを行った。